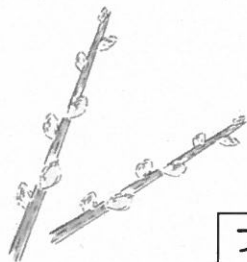


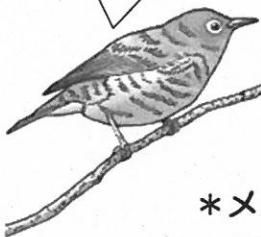
季節のできごと

雑木林の落葉樹の葉が落ち、トンボ池や下の池、竹林が整備されたことで、生態園全体の見通しがよくなっています。バードウォッチングの日には、ヒヨドリ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、アオザキ、カルガモ、カシラダカ、カワラヒワ、シメ、コケラ、ウグイスなどを観察することができました。



フリソデヤナギ  
(ネコヤナギ)

チーチーチュルチュル  
チューチュルチュル



\*メジロ

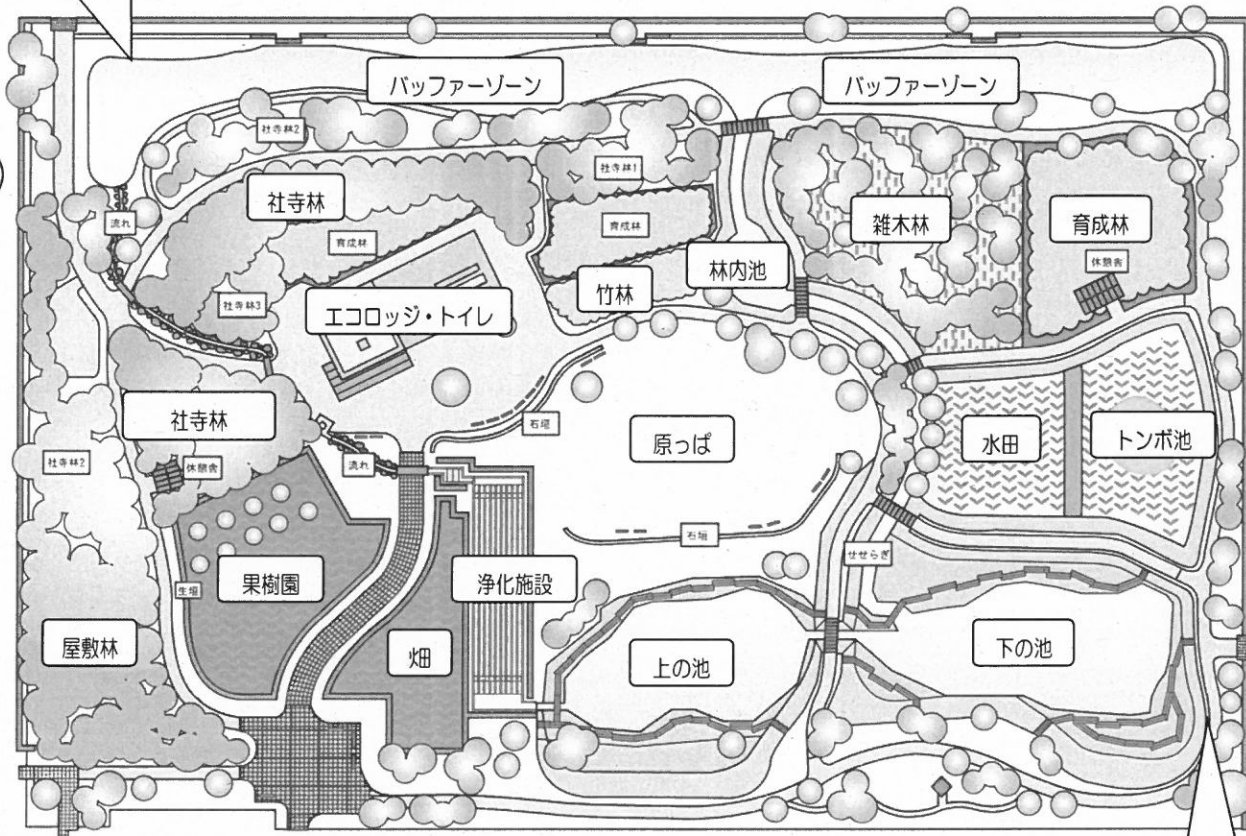
ピーヨ  
ピーヨ



ヒヨドリ



\*ホトケノザ



展望室

\*印については、裏に説明があります。参考にして下さい。

\*コブシ

チャッチャ

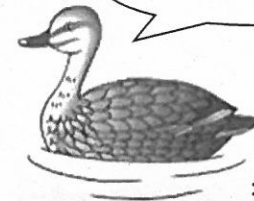
ホーホケキョ



ケケケキョケキョ

\*ウグイス

ゲエ ゲエ ゲエ



\*カルガモ



## \* メジロ \*

からだ  
メジロの体は、きれいな  
きみどりいろ め まわ  
黄緑色で、目の周りに



よ  
アイリングと呼ばれる  
しろ わ とくちょう  
白い輪があるのが特徴です。

あま だいす  
メジロは甘いものが大好きです。

ふゆ そうしゅん はな さ  
冬から早春にかけて花を咲かせるツバキやウメ、

かみつ  
サクラなどは、花蜜をなめにきたメジロやヒヨドリに  
かふん はこ しょうぶつ ちようばいか  
花粉を運んでもらいます。このような植物を鳥媒花  
といいます。

さむ じき みつしゅう よこえだ  
メジロは寒い時期などに、密集して横枝にとまり、

こうどう しゅうせい  
おしくらまんじゅうのような行動をとる習性がありま  
こんざつ ようす ものごと しゅうちゅう つづ  
す。混雑している様子や物事が集中して続くことを、  
しゅうせい み た めじろお  
この習性に見立てて「目白押し」といいます。

## \* コブシ \*

か らくようこうようじゅ こうぼく  
コブシはモクレン科の落葉広葉樹の高木です。

がつ がつ きぎ さきが  
3月～4月にほかの木々に先駆けて

ちよっけい せんち しろ はな こずえ さ  
直径7～10cmの白い花を 梢 いっぱいに咲かせます。

はな かんきつがい かお かいか どうじ はな した こがた は  
花は柑橘系のよい香りがして、開花と同時に花の下に小型の葉がひとつひらきます。

そうしゅん はな さ すがた とおめ み ほっかいどう  
早春に花をたくさん咲かせる姿は遠目にはサクラのように見えることから、北海道

とうほくちほう のうさぎょう はじ めやす たうちざら よ  
や東北地方では、農作業を始める目安とされ「田内桜」と呼ばれていたそうです。

なまえ ゆらい かたち ようじ てのひら に がつころ  
コブシという名前の由来は、つぼみの形が幼児の掌に似ているからや、10月頃  
じゅく かじつ しゅうごうか み い  
熟す果実が集合果でゴツゴツとして、にぎりこぶしのように見えるからなどと言われ  
ています。



## \* ウグイス \*

せなか ちゃかつしよく はらめん  
背中茶褐色、腹面は  
あわ はいろ おぼね なが  
淡い灰色で尾羽が長めです。



はるつげとり よ と あ  
春告鳥と呼ばれたり、取り合わせのよいたとえとして

い はる  
「ウメにはウグイス」と言われるなど、春のイメージ

じっさい き とまることすく  
がありますが、実際にウメの木にとまることは少な

はな みつ す き  
く、ウメの花の蜜を吸いに来たメジロをウグイスと

おも おお  
思っていることも多いとされています。

なわば いしき けいかいしん つよ  
ウグイスは縄張り意識と警戒心が強いといわれて

たにわた  
います。「ケキョ、ケキョ、ケキョ、ケキョ」(谷渡り)、

ささな な こえ けいかい  
「チャッチャ」(笹鳴き)という鳴き声は警戒している

めだ ぼしょ で な  
とき、「ホー、ホケキョ」と目立つ場所に出てきて鳴く

たかな よ なわば せんげん かんが  
のは「高鳴き」と呼ばれオスの縄張り宣言と考えられ  
ています。

## \* カルガモ \*

るい なか わんちゅう  
カモ類の中で1年中わたしたちの  
みじか おおがた  
身近にみられる大型のカモです。



せいたいえん あさ ゆうがた しも いけ  
生態園では、朝や夕方に下の池の

ふち かげ なら すがた  
淵やアシの陰に並んでいる姿をよくみかけます。

ほか ちが おす めす おないろ じき  
他のカモと違い雄と雌がほぼ同じ色で、時期による

いろ へんか からだ くる ちやいろ  
色の変化もありません。体は黒みがかかった茶色で、

とうちよう かがんせん きぶ め ぜんご  
頭頂、過眼線(くちばしの基部から目の前後)、ほおに

くる せん くる せんたん きいろ  
黒い線があります。くちばしは黒ですが、先端が黄色

とくちよう  
いのは、カルガモの特徴です。

と た つばさ かざきりはね よくきよう  
飛び立つときにみえる翼の後ろの風切羽(翼鏡)が

こうたく あおいる うつく  
光沢のある青色でとても美しいです。



## \* ホトケノザ \*

か やそう しかく くき だ は だんだん  
ホトケノザは、シソ科の野草で、四角い茎を抱くように葉が段々についてい

は ぶつぞう だいざ れんげざ に なまえ  
ます。その葉が仏像の台座(蓮華座)に似ていることから、名前がつけられ

くび の ひら はな ほか ちい  
ました。首を伸ばしたように開いているふつうの花の他に、小さく、つぼみ

かたち へいさか へいさか ひら じか  
のような形の閉鎖花がたくさんついてます。閉鎖花は、開かずに自家

じゅふん み つ はる なくさ なか はな  
受粉して実を付けます。春の七草の中でいわれるホトケノザは、この花の

か  
ことではなく、キク科のコオニタビラコのことです。

